



開発環境の構築

ここでは、本書のための環境を構築する方法を紹介します。インストールするソフトウェアは次の通りです。

- Mozilla Firefox
- Java SE Development Kit (JDK)
- Apache Tomcat
- MySQL
- Eclipse + Web Tools Platform (WTP)

MySQL は、**XAMPP** というソフトウェア・パッケージの一部としてインストールします。XAMPP は、MySQL の他に標準的なウェブサーバーである **Apache HTTP Server** や **PHP** など、ウェブ開発に役立つツールを収録したパッケージです。本書の内容との関連で言えば、ブラウザから MySQL を操作できる **phpMyAdmin** (p. 69 を参照) が利用可能になることが、最大のメリットでしょう。

OS 別に環境構築方法を紹介します。

C.1 Windows Vista および XP

Windows Vista あるいは **XP** 上で開発環境を構築する方法を説明します¹⁾。作業は、Vista では標準ユーザとして、XP では管理者として行います²⁾。

C.1.1 Windows の設定

ファイルの拡張子を表示する

Windows では、ファイルの種類をその拡張子 (最後の「.」以降の文字列) で判別します。Windows の初期設定では、登録されている拡張子は表示しない設定になっていますが、これでは不便なので、すべての拡張子を表示するように設定を変更します。

コントロールパネル ⇒ デスクトップのカスタマイズ (XP では「デスクトップの表示とテーマ」) ⇒ フォルダオプション ⇒ 表示タブ ⇒ 「登録されている拡張子は表示しない」のチェックを外す (図 C.1)

1) スクリーン・ショットは VMware Server 1.0 上にインストールした Windows Vista RC1 でのものです (Windows XP でも動作確認はしています)。

2) Windows のユーザには、大きく分けて標準ユーザと管理者 (Administrator) があり、ソフトウェアのインストールやサーバー・プログラムの操作は管理者でなければできません。安全を考慮して、ふだんは標準ユーザとして利用し、必要なときだけ管理者になるようにすべきです。Windows Vista では、管理者権限が必要なときは、そのパスワードを入力することによって、一時的に管理者になることができます。Windows XP にはそのような機能はないため、常に管理者として利用するのも仕方ありません。